

自由研究だつて、

へつちやらさ。み。



「調べてみれば
おもしろいことって
いっぱいある」

富

士市は、調べてみれば、おもしろいことつて、いっぱいある。「自由研究は嫌いだ」なんて言わないで、おもしろそうなこと、何か見つけてみよう。今から探せば、きっと見つかる。そしたら、自由研究だつてへつちやらさ。今月号は、小中学生のための自由研究ヒント集。

その①

富士市は、みんなも知っている有名な「かぐや姫」の生まれたところ。比奈の「竹採公園」には、卵形の石に「竹採姫」と彫つてあつて、ここがかぐや姫の生まれたところだと伝えられているし、「赫夜姫」とか「籠畑」の地名もあるんだよ。日本中で幾つか、「かぐや姫の里」だと言つていられるけれど、地名まで残つているのは富士市だけ。「かぐや姫」を調べて見るのもおもしろそう。

その②

ふえ続けるごみを調べよう。ごみの量は毎年ふえ続けて、一人が一年間に出すごみは三百六十キログラム。そして、清掃工場でごみを燃やす費用が、一年間で十四億六千万円。これだけのお金があると、四階建ての校舎が二つ、プールなら十九もできる。みんなの家では、どんなごみが多いのかな。

その③

取つておきのヒントは、古墳時代を調べよう。何といつても、古墳時代がおもしろい。ところで、古墳って何だか知つている？ 今から、千六百年から千三百年前に、石や土を高く積み上げてつくつたお墓のこと。市内には、現在六百近い古墳が発見されていて、船津や須津には、なんと四百もあるんだよ。このほかにだつて、富士岡、比奈、伝法、広見、元吉原、岩本、鷹岡にも幾つかある。

昔の富士市は、きれいな川が流れ、暖かい気候で、浮島沼の周りは米づくりに最高の場所。そして、山に行けばイノシシやウサギ、シカに、フリヤどんぐりの実もいっぱい取れたから、暮らしやすかつたんだね。そうした人々の住んだ建物や、生活の場所、これを遺跡というんだけど、知られているだけでも四十五遺跡もある。吉永の千束遺跡、元吉原の三新田遺跡、原田の宇東川遺跡、今泉の沖田遺跡、天間の天間沢遺跡など。だから探せば、みんなの家の近くにだつてある。なぜ、古墳時代というのか、古墳の形はどんなか、人々の生活はどうだつたのか。さあ、一緒に古墳時代に戻つて、一つ一つ、なぞを解いてみようよ。

「古墳時代に戻って
一つ一つ
なぞを解いてみようよ」



西暦	時代	古墳	遺跡
300	古墳(前期)	東坂古墳 浅間古墳	沖田遺跡 宇東川遺跡 天間沢遺跡 三新田遺跡
400			沢東A遺跡
500	古墳(中期)	伊勢塚古墳	琴平古墳 庚申塚古墳 山ノ神古墳 中原古墳群 横沢古墳 実円寺西古墳 大阪上古墳
	古墳(後期)		

Question Answer

なぜ古墳時代というのですか

年

縄文時代の人々は、弓矢を使って狩りをしたり、木の実を取ったりして生活していました。

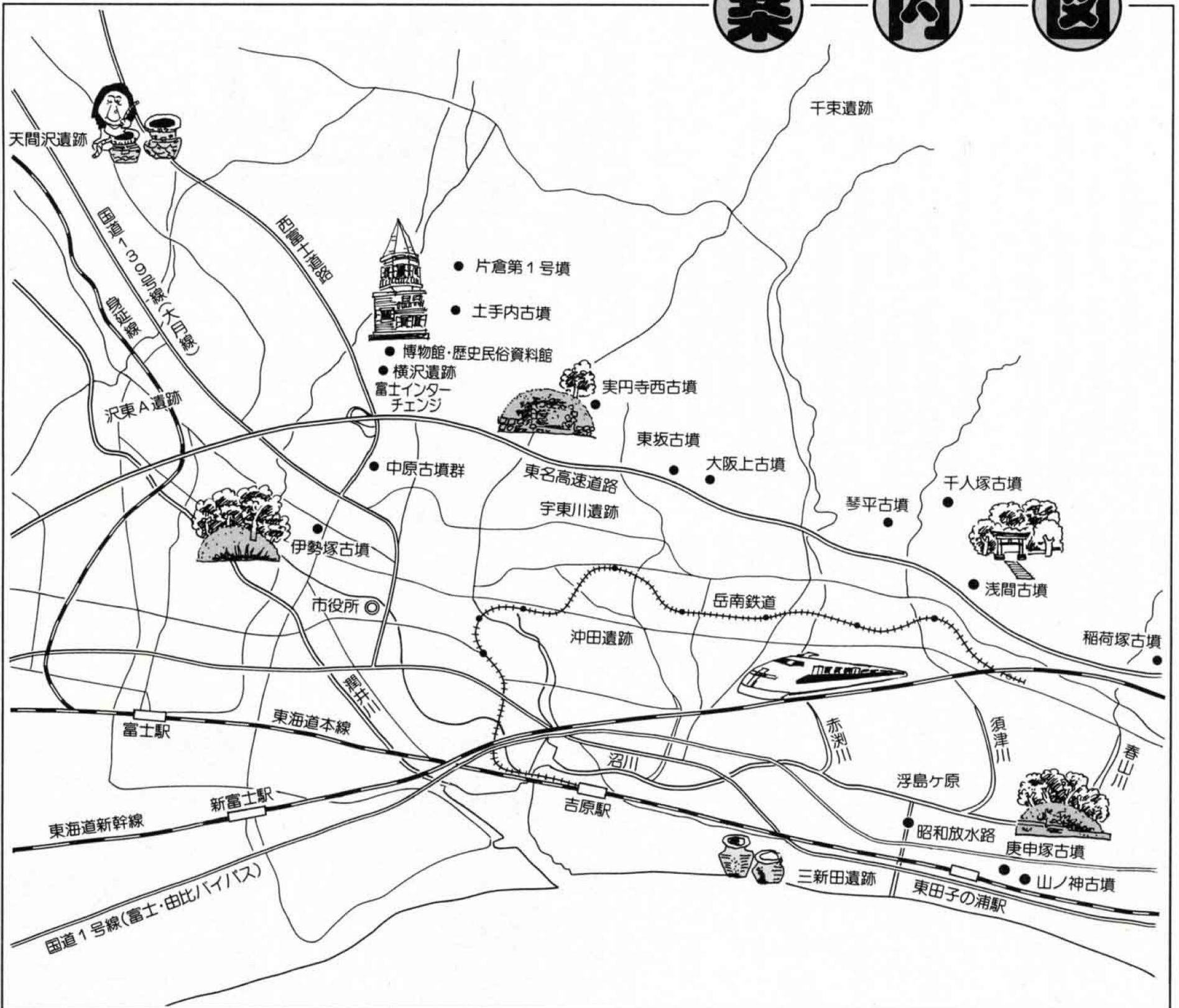
弥生時代には、田畑を耕し、米をつくって生活するようになりました。使っていた土器も、人々の生活に合わせて、縄文式土器から弥生式土器に変わっていきました。

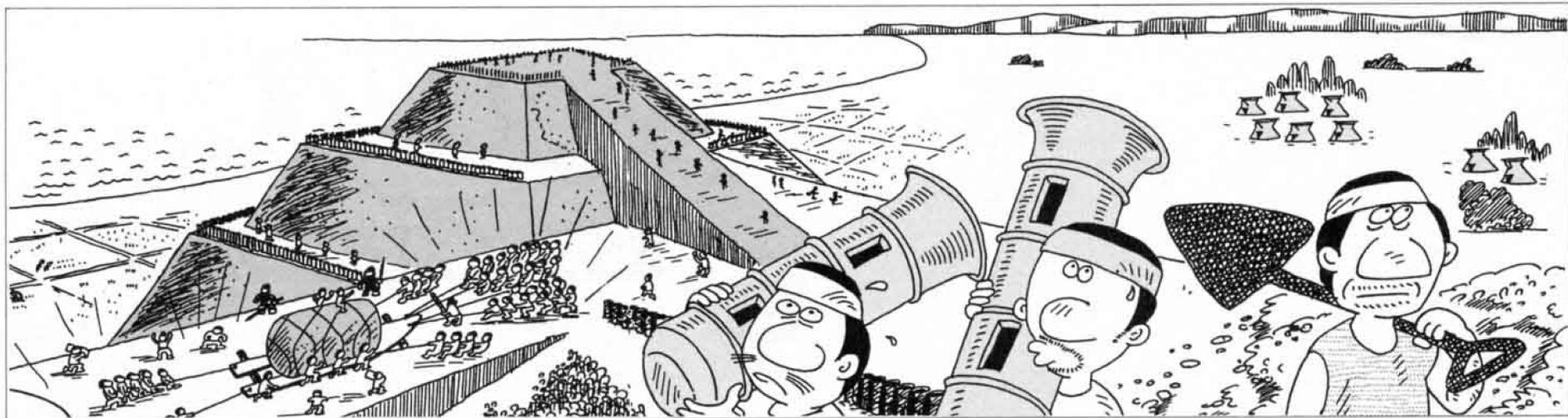
表

古墳時代になると、身分や階級ができました。そして、身分の高い人を中心に社会が動くようになり、身分の高い人は、村人たちを働かせて、自分のお墓である古墳をつくらせました。

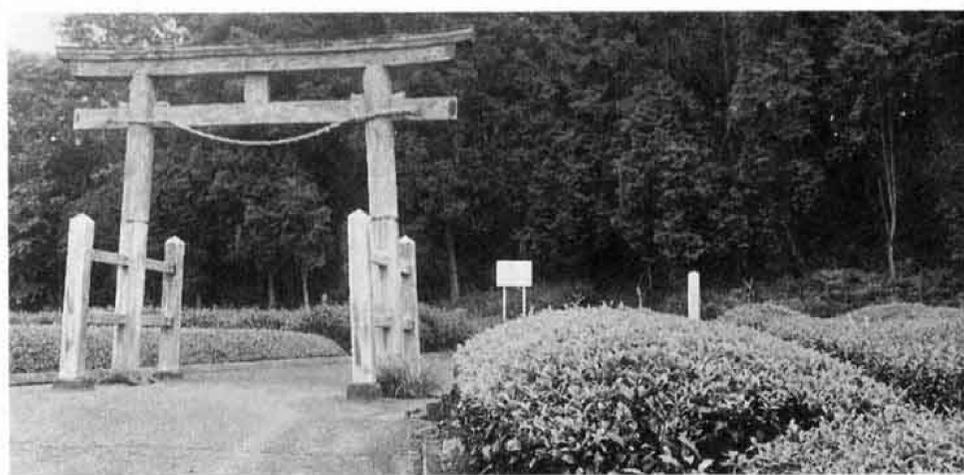
このため、このような時代を古墳時代といいます。

案内図





古墳づくりで、手に持っているのは“はにわ”



△一番大きい浅間古墳（須津）

古墳時代、富士市は何て呼ばれていたと思う？
 どうも「スルガ」と呼ばれていたみたい。
 この「スルガ」の国の最初の首長、
 首長つて、国を治めていた、身分の高い人のこと
 なんだけれど、
 この人の古墳が、県立吉原工業高校のところにあ
 った、東坂古墳と考えられているんだよ。
 ここからは、鏡や剣、そして、まが玉やガラス玉
 も出てきた。今から千六百年も前のものだから、
 すごいよね。見てみたい人は、広見町の博物館へ
 行ってみて。見せてもらえるから。
 「スルガ」の一番大きい古墳は、愛鷹山のふもと
 須津にある浅間古墳。東坂古墳から約二・五km離
 れてつくられている。今は、木がたくさん茂って
 しまつて、前方後方墳の形が確かめられない。
 残念。

スルガの古墳

古墳時代も終わりころになると、首長ばかりか、
 小さな村を治める人たちも、古墳をつくりだした。
 でも、首長の古墳より、ずっと小さい円墳。
 特に須津川や春山川の近くに、約四百の古墳が見
 つかつた。なぜここに、
 こんなにたくさんさんの古墳ができたのかつて？
 春山川に、古墳づくりにもつてこいの石がたくさ
 んあつたことや、
 浮島沼の周りに広い水田が開けていて、大勢の人
 々が、ここで米をつくって生活していたこと。ま
 た、古墳が山の中まであつて、今まで壊されな
 いで残っていたことなど。
 古墳にも、築造ブームがあつたんだよ。
 この時代の古墳から出てくるものは、鏡のような
 立派なものではなくて、ふだん使った土器や馬具。
 死んだ後でも、生活していくのに困らないように、
 土器や馬具を古墳の中に入れたんだね。
 どお、みんな！少し古墳のなぞが解けてきたかな。



△前方後方墳
ぜんぼうこうほうふん



△前方後円墳
ぜんぼうこうえんふん

Question Answer

古墳はどんな形をしていますか

古墳の形は、約12種類です。市内で一番多いの
 が「円墳」で、伊勢塚古墳や横沢古墳などです。
 円墳は、古墳時代の後期に多くつくられました。

円墳と四角形を組み合わせたような形のものが
 「前方後円墳」です。東坂古墳や山ノ神古墳がそ
 れです。

「前方後方墳」の形をしたものに、浅間古墳が
 あります。古墳時代の中期につくられています。
 国指定史跡で、市内で一番大きい古墳です。長さ
 は98m、幅が60mもあります。

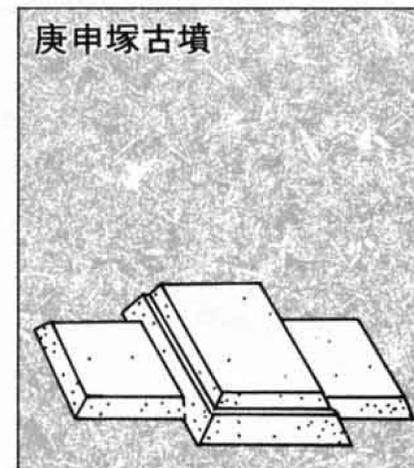
庚申塚古墳は、全国でも珍しい「双方中方墳」
 という形をしています。古墳の形は、死んだ人の
 位やつくられた時期でも変わると言われています。

えんふん
▽円墳



伊勢塚古墳
横沢古墳
実円寺西古墳

そうほうちゆうほうふん
▽双方中方墳



庚申塚古墳



古墳時代の村の様子



△三新田遺跡から見つかった土器



△4本の柱の跡がわかる竪穴式住居



△遺跡の発掘現場（天間）



古墳時代の暮らし

墳時代の暮らしを、のぞいて見よう。

古 元吉原の三新田遺跡。ここは、古墳時代の初めころから平安時代にかけての遺跡。

村の南は海で、北は浮島沼が広がっていた場所。だから村の人たちは、魚をとって暮らしていた。なぜそんなことがわかるのか？

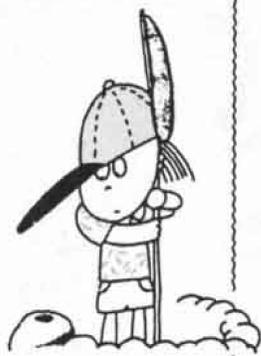
だって、ここを発掘したときに、魚をとるときに使う、たくさん土や石でできた「おもり」が見つかったから。

もちろん、浮島沼の周りで米もつくったけれど、海は近いし、魚はとれるし、山の方の村では、魚が欲しいって言うし、漁に力を入れて、「ぶつぶつこうかん」したみたい。

三新田遺跡の調査をしたとき、古墳時代の家の跡が、約四十くらい見つかった。家は、弥生時代と変わらない「竪穴式住居」。

古墳・遺跡の通になりたい人に

- ① 図書館に行って参考図書を読む
「富士の古墳文化」・「原始・古代の旅」・「こどものための古墳の話」・「富士市の埋蔵文化財」（古墳編・遺跡編）・「発掘調査概報」など。
- ② 大人の人に教えてもらう
広見町の市立博物館や市役所7階の文化振興課で教えてくれます。行く前に、どんなことを聞きたいのか調べてみてください。
- ③ 古墳や遺跡の場所に行ってみる
家の近くにない人には、博物館や天間沢遺跡公園、三ッ沢の実円寺西古墳がお勧め。復原してあるので、よくわかります。
- ④ 見学ツアーに参加する
夏休みに、古墳を訪ねるツアーがあります。博物館の「古墳めぐり」と広報広聴課の「親子施設見学」。暮らしのたよりのページを見て申し込んでください。お早目に！



大小はあるけれど、一辺が二〜六寸の四角形で、中に、屋根を支える四本の柱と、真ん中にかまど。ここでご飯を炊いたり、魚を焼いたりしたんだね。食べ物を入れるのに使ったのは、「土師器」と「須恵器」。「土師器」は、粘土をひものようにして形をつくり、直接火の中で焼いたもの。その一方「須恵器」は、朝鮮半島から伝わった技術で、ろくろを使って大量生産して、主に、くんできた水を入れておくのに使ったみたい。土器は、富士市でもたくさん見つかったよ。市役所の近くにある「埋蔵文化財整理作業所」や、博物館へ行ったらきつと見せてくれる。古墳時代に、鉄が使われだした。鉄で稲を刈るかまや釣り針もつくった。また、いろいろ工夫して水路を引き、高い場所でも米がつくれるようになっていった。古墳や遺跡の発掘で、今までわからなかったことだって、だんだんわかってきてるんだよ。